

「慶北大学サマープログラム参加報告書」

京都大学法学部3年 遅 聖佳

私にとっては、今回が初めての大学のプログラムに参加するといった形での外国に短期滞在した経験でした。派遣に参加する前は、正直不安も大きかったです。なぜなら、韓国と日本では経済的には良好な関係にあるものの、いまだに歴史的・政治的問題の対立が存在するからです。でも、実際に現地に行ってみないことには何も分からないし、旅行では十分に体感することのできない文化や生活習慣の違いを肌で感じてみたいと思い、このプログラムに参加しました。

今回のプログラムの最大の特徴は、日本人学生2、3人のつき韓国人学生1人がつくという「Buddy方式」をとっていることです。彼らは文化体験カリキュラムや週末の課外活動と一緒に参加しサポートしてくれた以外にも、放課後の空いた時間に食事に連れて行ってくれたり、学生に人気のスポットを紹介してくれたりと本当によく世話をしてくれました。そんな彼らとの交流を経て実感したのは、日韓には様々な問題の対立があり認識の違いがあるものの、私たちが直接交流していくことでお互いの理解を改めたり、分かり合ったり乗り越えたりすることができるということでした。滞在中によく通っていたカフェでたまたま仲良くなった韓国人の大学生に「私は昔日本が嫌いだったけど、あなたたちと会ってから考えが変わった。両国には色んな問題があるけど、それは私たちが仲良くなる上では全然関係が無いことだよな。」と言われたときに、私は強くそのことを実感しました。最初は「韓国人」と捉えていても、いつの間にか「仲の良い友達」という認識に変わっていて仲良くなるのに国籍は関係ないのだと思いました。また、韓国人の学生たちは将来への意欲が高く、日本に留学したことのある人やこれから留学しようとしている人たちが大勢いて非常に刺激を受けました。その中には、将来日本語で仕事をしていくという人までいて、国外を見据えた進路を考えていることに驚きました。

私は将来国際弁護士になりたいと思っています。国際弁護士になるには、当然各国の法律制度に精通している必要がありますが、各国の法制度を理解するにはその国の文化的背景を理解することが必要だと考えています。なぜなら、法律はその国の文化や生活習慣、国民の考え方を少なからず反映したものであるからです。今回のプログラムに参加したことで私の韓国の文化に対する理解は深まり、さらに、直接現地の人と交流しその国の現状を知り色々な考え方に触れることの大切さを知りました。この経験を今後韓国の法律を学んでいく上で役立てていきたいと思っています。

今回のプログラムは私の異文化理解への意欲をより高めたと同時に、様々な出会いを与えてくれて将来のことを真剣に考えるきっかけとなりました。これを今後の学習にも活かしていきたいと思っています。